

『動線に内在する言葉』 —緩衝動線を用いた関係性の提案—

「緩衝動線」とは内⇄外, 都市⇄身体, 公共⇄個人などの緩衝剤として互いをつなぎリズムを与え、
滞留空間だけでは生み出されない界限性のようなものを作り出す動線空間である。

そのような動線空間に内在する言語に耳をかたむけ本来の場所性について再考することで、建築がさまざまな条件によって消費されるだけの存在としてではなく、それらに捉われない価値観をみつけることを目的とする。

<p>【 緩衝動線について 】</p> <p>「緩衝動線」とは私の造語であり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二つ以上の目的をもった空間をつないでいる。 2. 都市と接続している。 3. 利権が希薄で「誰の物でもない場所である」 <p>と定義している。</p> <p>今後グローバルズムや超高率の時代を迎え、ますます余白のない空間が多産されるのであれば「だれのものでもない」動線空間が余白となり界限を作り出し、都市や建築に場所性や地域性をもたらすのではないだろうか。</p>	<p>【 設計のヒント 】</p> <p>研究室前の片廊下に模型材料や変わった机などのノイズと言え物は何気なく置かれていたこの光景が本課題のヒントとなった。</p> <p>動線空間を単純な通路としてだけではなく、様々な緩衝剤の役割を果たす存在として再認識し、設計を見つめ直すことが建築本来の価値(場所生や地域性など)を取り戻すことに繋がると考える。</p>	<p>【 日本の緩衝動線 】</p>	<p>【 ヴォイドの戦略から 】</p> <p>レムコールハースは無個性な建築空間に先に余白となるヴォイド空間をつくりだすことで建築に個性を作り出しているが、建築にもともとある動線空間を余白として扱うことでより効率的に建築空間に個性、場所主をつくりだすことを目標としている。</p>
--	--	--------------------	---

【 20.LUZ 白金 】

設計 建築 川辺高橋建築設計事務所
構造 多田裕二構造設計事務所
積算計画タカ・グリーン・フィールズ
施行 在野舎
敷地面積 187.82㎡
建築面積 107.53㎡
延床面積 409.79㎡
階数 地上5階
構造 鉄筋コンクリート造 (RC)
工期 2010.07~2011.03
敷地 東京都港区白金1丁目15-19

【動線面積、動線延長、目的内部や外部との接地点】

1F	48,227㎡	65,589m	26,293m
2F	14,363㎡	24,000m	5,072m
3F	14,694㎡	23,900m	5,110m
4F	15,339㎡	25,236m	4,310m
5F	11,316㎡	20,850m	5,611m
計	103,879㎡	159,573m	47,900m

目的内部空間との接地点面積 → 1,536㎡/㎡
目的内部空間との接地点面積 / 動線の面積 → 29.453%
折れ曲がり回数 → 11回

スケール 1/200



How to Analysis

【 分析指標 】

超過密な情報や物質であふれる時代に物事（内部か外部か、パブリックかプライベートか、都市的か個人的か）を2項対立的に位置づけるのではなく、その二つの間に「別の場所」を用意することで、様々な要素が衝突を起こさずに相互に関連するのだとすれば、緩衝動線が目的空間のバッファーとしての役割を果たすには、何かと何か（目的空間）との間にあり、何らかの特徴があるはずである。そこで以下の指標を用いて実例45作品の分析を行う。

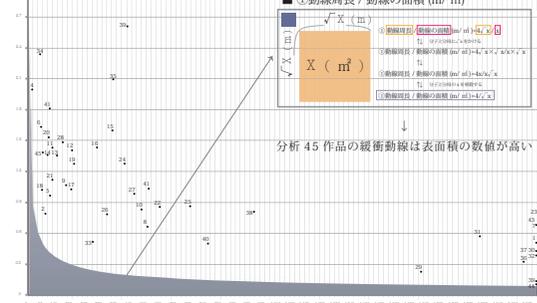
- ①動線の周長 (m) / 動線空間の平面積 (㎡) → 動線形態の1㎡あたりの表面積 (都市や目的空間との接点をいかに保有しようとするか)
- ②目的内部空間や外部空間との接地幅 (m) / 動線の周長 (m) → 外部や目的内部空間と関係性があるか
- ③折れ曲がり回数 → エッジ、ノードらしさ

Typology

設計提案へ用いるために本論において左記の指標を用い日本の動線に特徴ある建築全45作品の分析を行い、緩衝動線の合理的な特徴を求めた。

①動線の周長 (m) / 動線空間の平面積 (㎡) では動線空間の周長 (表面積) の割合を求め、動線が目的空間や外部との接続する意思の数値化を行なう。②目的内部空間や外部空間との接地幅 (m) / 動線の周長 (m) その周長のなかで動線が目的空間との関係性をどれだけ保有しようとするかを数値化する。③の折れ曲がり回数は動線経路を平面図にしめし、そのヒエラルキーや場面展開を明確にする。そしてそれらを上記のデータシートにまとめた結果、緩衝動線の周長は例外なく大きな周長 (表面積) の比率を示していた。(結果表、グラフは左記下段のもので、下の曲線グラフが通常の矩形を面積あたりの①の指標を数式化したもの、点化する丸ボチがそれぞれの作品の①の指標)

①動線の周長 (m) / 動線空間の平面積の結果表



【 1. 内包型 】

目的空間を広めの動線空間によって囲み表面積を確保

【 2. 回廊型 】

回廊させることで全方位的に動線をまわして中央の目的空間もしくは中庭や他の目的空間もしくは外部を結びつける。

【 3. 点状型 】

点在させることで表面積の確保

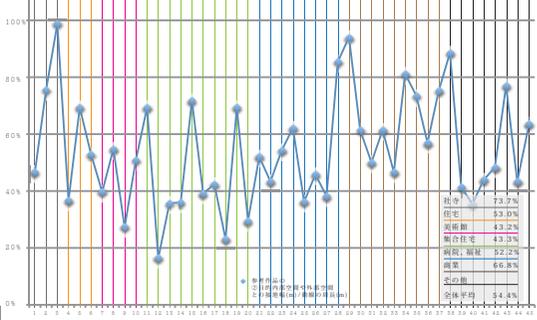
【 4. ツリー型 】

一筆書きの動線から行き止まりの線を延ばすことで表面積を確保

【 5. 蛇行型 】

目的空間から目的空間を繋ぐ一筆書きの動線を蛇行させることで表面積を確保

②目的空間や外部との接地幅 (m) / 動線の周長の結果



1-1. 回廊型 - 内部動線の外部化 -

1-2. 回廊型 - 外部動線の内部化 -

2-1. 回廊型 - Lやコの字型回廊 -

2-2. 回廊型 - 内包型+ツリー型 -

2-3. 回廊型 - 内包型+内包型 -

3-1. 点状型 - 採みこみ -

4-1. ツリー型 - 幹の部分か都市と接続 -

4-2. ツリー型 - 枝部分が立面へ表出 -

5-1. 蛇行型 - 二面接道 (通り抜け) -

from Model to Design

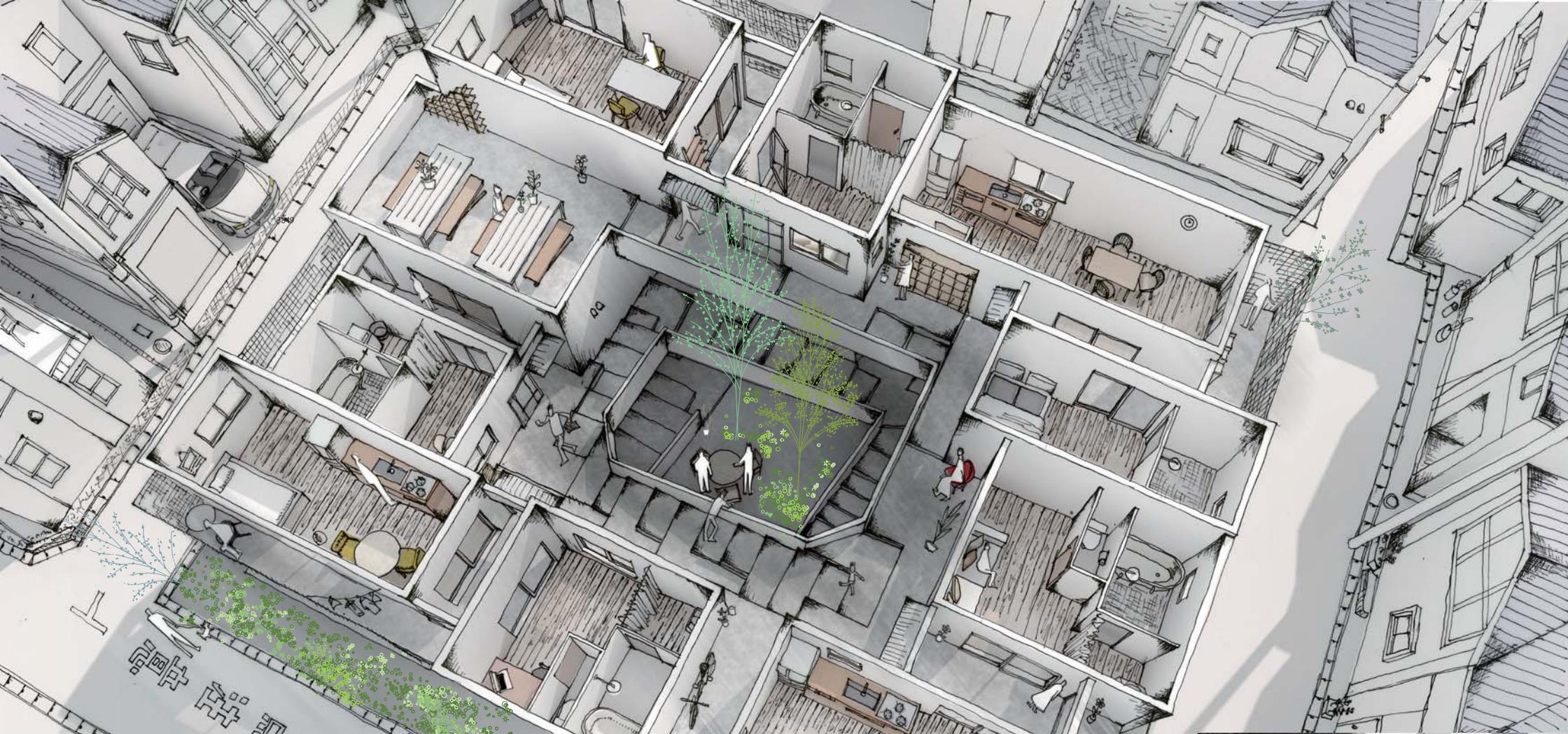
類型化した「緩衝動線」の5形態を外部空間や都市空間との接続方法から、先ほどの5体系をさらに13個の類型に細分化した。

3-2. 点状型 - 外周配置 -

5-2. 蛇行型 - 一面接道 (行き止まり) -

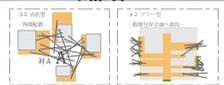
5-3. 蛇行型 - 一面接道 (回廊) -

これらの類型から建築用途や敷地条件などを考慮、選別し設計提案に用いる。



Concept

■ 集合住宅における「緩衝動線」
変化を許容する共用部

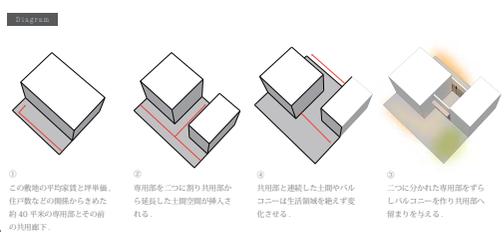


変わりやすい(うつろいやすい)賃貸住宅の環境状況が直接自身の生活に干渉する物ほど不快なことはない。その環境変化の様子は気になる。その矛盾した状況を対立させて考えるのではなく、マージナルな領域を挿入することで解消できないだろうか…

しかし賃貸集合住宅は各室の平米数による賃料への配慮に重きが置かれそのプランニングはワンパターンになりがちである。そのため、そのような中間領域を持たせることは難しい。

そこでこの集合住宅にもある共用動線というものをもう一度考え直すことで、賃貸住宅の環境について見直す。賃貸住宅のうつろいやすいパラメータ要素 — コンテキスト、住人、環境、物質 — が本来なら衝突を起こしているにも拘らず、建築という行為や形式を通して、それぞれが相互に関連し何事もなくそこにある…そんな状態を作ろうと思った。

プライベートかパブリックか、内部か外部か、という対立的なではない別の場所が賃貸住宅の暮らしを豊かにする。



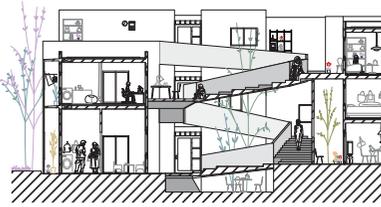
Plan

段々のような共用部では階高のレベル差により、生活感にしみじみしたり、癒えることができ、専用部からの生活領域が広がるような感覚を得る。



Section

段々のような共用部では階高のレベル差により、生活感にしみじみしたり、癒えることができ、専用部からの生活領域が広がるような感覚を得る。



Wall Materials

立面や外壁部まで、変わる共用部から延長したテラスや土間などより立面に影が生まれ、穴という水路のほりめられた面との調和を図る。

